

普及活動情勢報告（平成29年10月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

水稻採種組合ほ場審査



10月13日、南国採種組合において、水稻種子を生産するほ場の審査を行いました。

組合員と全農の立ち会いの下、農業改良普及課と農業技術センターの種子審査員が、ほ場ごとに病害虫・雑草の発生状況や穂ぞろい、成熟状況について審査し、優良な種子を生産するほ場かどうかを判断しました。また、収穫に向けての管理について、組合員に指導しました。

農業改良普及課は、今後生産物の審査を実施して、平成30年度に向けた優良種子の生産・供給の取り組みを支援していきます。

香美市、香南市の産地紹介を担い手育成センターで行いました



9月21日、長期研修生13名に対し、産地提案型による新規就農者の受け入れについて生産農家、JA土佐香美、市役所と共にPRを行いました。農業改良普及課が、産地提案書の品目ごとに説明を行った後、農家から1年間の作付計画や農家の1日、JAから生産部会活動、市役所から地域の特徴がそれぞれ紹介されました。研修生からは農村や農家の暮らしに魅力や興味が沸いたようで、積極的に質問するなど有意義な時間を共有できました。

農業改良普及課は、受入農家や部会、関係機関と情報を共有し個別の支援につなげていきます。

現地検討会で生育と栽培管理を確認しました（JA土佐香美フルーツトマト部会）



9月28日、10月11日に夜須町でフルーツトマト部会現地検討会を開催し、のべ26名の生産者が参加しました。

農業改良普及課からは、前園芸年度に部会で作成した生育診断基準や栽培指標を再提示し、合計13ほ場で生育が順調か、かん水量が適当かなどについて生産者と確認しました。

参加者らは、「芯の伸びがないので水を増やしてはどうか」「は種、定植日が同じなのに生育ステージが違う」「12月からフルーツ(高糖度)で出したいので、徐々にかん水量を制限し始めている」など意見し合い、各自が管理を見直すことができました。

農業改良普及課は、今後も現地検討会等を通じフルーツトマトの生産安定と生産者の所得向上を支援します。

ニラの厳寒期の収量増加に向けて



10月に2戸の農家を個別巡回し、経営規模に応じたニラの作型を検討しました。ニラでは、単価が最も高い、厳寒期の収量を増加させるために、作型を上手く組み合わせることが重要です。

今年度の作型と収穫日を聞き取り、農家と一緒に計画どおり作業できているか確認し、今後の栽培について話し合いました。また、次年度の作型改善に向けて、1日ごとに出荷箱数や刈り捨て量等を記録することを提案しました。

農家からは、「定植時期が遅れたハウスがある。来年は定植を早くしたい」などの声が聞かれました。

農業改良普及課は、厳寒期の収量増加に向けて、作型の前進化など適正な作型への改善を支援していきます。

労働力確保対策講演会を開催～知っておくと得する効果的に人材を確保する方法！



9月19日、南国市のアンジェブランで労働力確保対策講演会が開催(主催：南国市認定農業者協議会)され、農家や関係者約100名が参加しました。農業改良普及課は、講師の選定や講演の内容について助言するなど開催を支援しました。

講演は、「求職者は、何を基準にして仕事を選択しているかやその優先順位は？」や「安心して快適に働いてもらうために求人者側が備えるべき条件は？」など、具体的かつ分かりやすい内容で、参加者からも大変好評でした。

農業改良普及課は、今後も農家の省力化や労働力確保に向けた支援を行います。

新・農業人フェアにて産地提案書のPRを行いました



9月16日、南国市担い手育成総合支援協議会と共に南国市の産地提案書による新規就農者の受け入れについてPRを行いました。

名古屋会場全体では470名が来場しました。来場者アンケートから近隣県の参加が多かったこと、インターネットでフェア開催を知り、情報収集のために来場した方が多かったことが分かりました。南国市ブースでは7組8名がお見えになり、研修事業を中心に情報提供を行いました。

農業改良普及課は、今後、高知県に関心の高かった来場者を中心に、関係機関と情報を共有し、PR等支援を行っていきます。

親子で稲刈り体験



10月4日に南国市で稲刈り体験を開催し、岡豊小学校5年生、稲生小学校4年生、保護者及び教職員の計66名が参加しました。

農業改良普及課からは、稲刈りからお米になるまでの作業を、江戸時代から現代までと時代ごとに紹介しました。その後、学習田に行き、稲刈りをしました。

児童からは、「品種によって収穫期間に違いがあるの?」、「江戸時代に使われていたこきばしって何?」、「稲刈り楽しい、もっとやりたい」などの意見がありました。

農業改良普及課では、今後も関係機関と協力して田植え体験や稲刈り体験など、「食」に興味をもってもらえるような活動を行っています。

JA十市で勉強会を開催しました



10月6日、JA十市の出荷場でシントウの勉強会を開催し、14名の生産者が参加しました。

農業改良普及課からは、現地の状況を示しながら育苗期間の管理、良質苗を適期に定植する大切さ、定植時のポイント等について説明しました。生産者からは、「なぜ浅植えにするのか?」「自分は購入苗やから、会社に苗を見に行きたい」「ハウスの準備も早くしないといけない」等の意見が聞かれました。

今後は、部会や巡回等を通じて、誘引、整枝方法、蒸発散量に応じたかん水管理、低位摘芯栽培等の指導を行います。

JA土佐香美野市支所花卉部トルコギキョウの出荷前検討会が開催されました



トルコギキョウの定植が終わり、早いものでは蕾も大きくなってきたことから、10月17日にトルコギキョウ生産者10戸全員が出荷場で、出荷規格の見直しや本年度の品種について検討しました。その中で、今年は現地検討会等で新品种の情報を共有していくことになりました。農業改良普及課からは、JAとともに最近の注意したい病害虫について、情報提供しました。

農業改良普及課は、今後も、トルコギキョウの栽培技術について情報共有を図り、品質向上の支援を行います。

加工品の製造工程を見直して衛生管理を徹底しています



9月22日、直販所菰生の里の加工グループ「にろうまいこ」6名が、作業工程改善のため、工業技術センターによる現地指導を受けました。農業改良普及課は、衛生管理の改善のため、工業技術センターによる指導を提案し、4月と8月に続き、3回目の指導・改善の取り組みとなりました。

今回は、更なる改善点について「作業中にキャップが外れていることがあるので、お互いが注意するように」「パック詰め作業は異物混入など特に注意すること」等の指導を受け、「自分では気付かないこともあるのでお互い気をつけよう。鏡を設置しよう。」「パック詰めは流れ作業なので注意しなくては」などの意見がありました。

農業改良普及課は、今後、チーム会を開催し、改善状況を確認するとともに、パッケージデザインの改良等を支援します。